

EPA 受験者、123 人を調査 !!

予想以上に言語能力がなかったことが浮き彫りに

ことばの研究社
TEL 086-486-1742
FAX 086-486-1744
kotoba_ken@yahoo.co.jp

- ※ 弊社が行っている【10 分間テスト】を受験した 123 人の結果を発表する。発表する理由は、受入れ機関がほとんど受験者の言語能力を把握していないためだ。
- ※ 受入れ機関の理解は、集中研修の成績結果と、事業団テストの結果を見て、それが本当の言語能力だと思い込んでいる節が多々ある。しかし、これらの試験は、「マークシート形式」であるために、本当の言語能力を見ることができないことに、気付いていない。

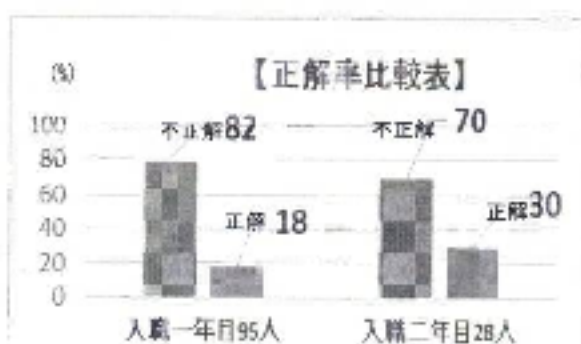
- ※ 今回の調査結果の最大の特徴は、表 1 の通り、入職一年目と二年目の差がほとんどないことだ。そして、二年目の受験者の日本語力は、一年間かけたにも関わらず、向上していないことが判明した。
- ※ 日本語力があると錯覚しやすい最大の要因は、一定程度の会話が出来るためだ。その結果、適切な教育指導ができずに、漠然と歳月を過ごしている実態が浮き彫りになってきた。

1.【これが受験者の日本語力の実態!!】

1.【入職一年目と二年目では、ほとんど言語能力差なし】

- 表 1 は、入職一年目受験者 95 人と、二年目受験者 28 人の言語能力を比較して表したものだ。
【10 分間テスト】は、問題数が 10 問で、1 問 1 分間で記述させる試験だ。全問正解した場合には、日本人の小学 3 年生 (10 歳) レベルの日本語能力があると見なす試験だ。
- 表 1 の特徴は、入職一年目の正解率は 18% で、二年目では 30% に留まっていることだ。この差は、12% しかない。即ち、二年目の受験者の方には問題があるということだ。その理由は、一年間も何らかの形で日本語教育を受けながら、その成果がほとんど無いことを示しているからだ。この点に着目して、いかに一年目の教育が重要であるかを認識する必要がある。

表 1.【入職一年目、二年目 受験者数 123 人】



2.【受験者の言語技能は、日本人の 3.5 歳児レベルだ】

- 言語技能とは、人間が生活して意志表現をするために必要な能力を言う。即ち、人間が持つ五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）から得た情報を、言葉にして意志表現する能力を指し、社会生活上に必要不可欠の能力を言う。
- 受験者は、来日前日本語教育を約 2, 800 時間受けており、来日後集中研修を約 800 時間受け、合計約 3, 600 時間の多大な日本語学習時間を費やしている。しかし、この調査結果を見る限り、とても学習時間量に見合った言語能力が備わっていないことが明白となった。
- この最大の原因は、言語能力を測るテストが「マークシート形式」であるために、本当の言語能力が確認できないことにある。よって、受験者の多くが意味不明のままに、選択して記号を書くだけの単純作業をこなして、現在に至っている。即ち、「実力がないのに、あるが如く錯覚させてしまう教育システム」が、最大の原因と言える。

3.【受験者は情景を読み取れないことが判明】

- 表 2 と表 3 の最大の共通点は、「情景読解力」が一年目で 4.2%、二年目でも 5.7% にしか過ぎない。このことは、職場での業務に大きな影響を与えることを表している。即ち、職場の状況を視とり、正確に判断ができる能力がないことだ。これは、事故に繋がる原因となる。
- さらに、特筆すべき点は、一年目と二年目の差が 0.5% しかないことだ。これは、二年目の受験者は既に一年間の職場経験の中で、正確に状況判断ができないままに業務していることになる。

表 2.【入職一年目 受験者数 95 人】

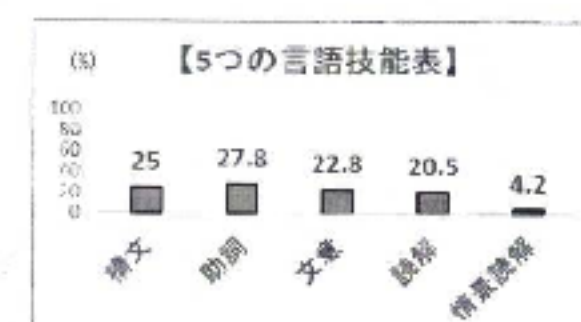
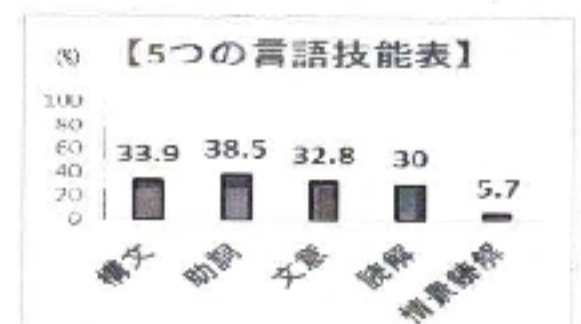


表 3.【入職二年目 受験者数 28 人】



II、【 言語技能別「10 分間テスト」結果を見たら、 国家試験問題が解けない能力が判明！！ 】

1、【 一年目と二年目の共通点は、「読解能力」が異常に低いことが特徴 】

- 「読解能力」とは、意志表現をする上で、「情景読解」と「文読解」を合わせて捉えることが重要だ。
- 調査結果では、「情景読解」は【五つの言語技能】の中で、極端に低いことが特徴だ。
その結果、「文読解」も一年目と二年目ともに必然的に低くなっている。
- 「読解能力」が低いことは、参考書と国家試験問題を理解する言語能力が低いことを示している。
- 一年目と二年目の基本的な言語技能の育て方次第で、国家試験の合格が決定されることを認識する必要がある。さらに、実務能力にも多大な影響を与える技能だと認識すべきだ。

2、【 「文意能力」がないことは、「語彙能力」もないことだ 】

- 「文意能力」とは、一文の意味することを理解し、表現できる能力のことだ。
- よって、文の構造と言葉に対する理解が不十分な場合は、文を読んだり、作文したりしても、文の意味が通らずに、正しく意志表現できるものではない。無意味な文を乱発しても、意味不明となる。
- 「語彙能力」とは、単なる言葉の数を多く習得していれば、能力ありとすることは間違いだ。
- 言葉の数で能力を見るのではなく、言葉の意味を正確に理解して用いているか、否かが最大の能力要素だと気づくべきだ。調査結果は、現場での単語だけの会話が飛び交っていることを表している。

3、【 「構文能力」が低いことは、正確な会話力がないことを表す 】

- 「構文能力」は、文字言語と音声言語両方にある。文意と助詞を正しく使えなければ、構文できない。「構文能力」は、会話力にも多大な影響を与える。
- 即ち、「構文能力」は文意能力と助詞能力が低ければ、正比例して、当然ながら低い能力となる。
表2と表3では、このことをはっきり示している。
- 職場での受験者との意志疎通が一分にできていると、錯覚している職員が非常に多くいる。
- 多くの場合は、正確な意志疎通ができていなくても、職員が「何を言いたいのかを推し量って理解する」ことで、物事を済ませている場合が多い。
このことが原因で、受験者の能力を阻害している。

4、【 「助詞能力」がないことは、文意を作れない証拠だ 】

- 「助詞」とは、前にある言葉を助ける音・文字を言う。それを正しく使う能力が「助詞能力」だ。
- 調査結果を見ると、表2と表3の【五つの言語技能表】では一番高い。但し、高くても二年目で38.5%にしか過ぎない。この数値は、正しく助詞を理解した上ではなく、日本語の形を復唱したものだ。
- 根拠は、文意・構文能力が「助詞能力」よりも低いことにある。即ち、「助詞能力」が高ければ、必然的に文意・構文能力は高まらなければならない。
- 言語技能は、必ず他の技能と関連性を持っている。特に、助詞・構文・文意の三つの関連性は、読解技能より密接した関係にあることを認識すべきだ。

III、【 言語能力の把握は、入職時が最適だ！！ 】

1、【 マークシート形式では、言語能力が分からない 】

- 選択方式には、二種類ある。一つは範囲を限った有限の選択と限らない無限の選択だ。受験者が受けてきた様々な試験は、有限方式だ。
- 安易な選択方式は有限で、選択肢が少ない程、確率が高くなる。だから、受験者の言語能力を見るには、不適切な方式と言える。

2、【 職員が正しく対応・指導できるために 】

- 入職直後に対応して初めて、言語能力の低さを実感する職員が多い。実務指導をしても理解できないために、指導時間が増加する一方だ。そのためにも、入職時には必ず、言語能力を把握すべきだ。

3、【 言語能力を把握できれば、実務が楽になる 】

- 表4の通り、入職時で言語能力把握ができれば、【三か年学習計画】が立てられる。その結果、職場での意志疎通が正確にでき、職員の労力が軽減されるから、入職時に【10 分間テスト】を受験すべきだ。

表4、【 三か年学習計画表 】



施設の声

4月号の【月報】合格率の解析を読んで！

「合格しても定着しない・・・」

- 月報の1面を興味深く読んだ。当施設は継続的に合格者を出してはいた。しかし、本州に出たり、他の施設に移動したりと、残ったのは今年合格した一人だけで、他は全員いなくなってしまった。
- 職員の反応は、「手をかけて育てても、いなくなってしまうとなると、非常に残念だ。」という声が上がっていて、対応する職員のモチベーションが下がっているのが実態だ。
- 合格しても施設に定着してくれないことも分かり、最近ではEPA受け入れをしていない。EPAではないが、他にも外国人はいるので、今の所は何とか動かせているが、これから先が心配だ。

(北海道・E施設)

4月号の【月報】合格率の解析を読んで！

「日本語文を書ける力なし・・・」

- 県別の順位表の集計が掲載されていて、よく調べられていたなと思ったことと、解析についても興味深く読んだ。当施設は継続的にベトナム人ばかりを受け入れており、幸い、順調に合格できている。全体的に見て、ベトナム人の合格率が高いこともあり、受け入れている者も、自分から進んで勉強するし、担当者としても関心している。
- 国家試験合格という面では、ベトナム人は本当に安心している。しかしながら、日本語文を書く力については、日本人のようなレベルには至っていない。そのため、会議でのメモとりや介護日誌を書く際には、支障があるのが現状だ。(東京都・H施設)

4月号の【月報】合格率の解析を読んで！

「教育効果より、信頼関係で継続」

- 月報の1面を興味深く読んだ。貴重な資料がありありがとうございました。当施設では、日本語教師の対面指導とオンラインの併用で行っている。同じ先生が継続的に指導していて、職員が知らないことなども、受験者は日本語教師とは話しをしやすいようで、それだけで信頼関係が強い。
- そのためか、受験者はオンラインよりも対面で行いたいという。合格はできているので、日本語教師の指導力もまんざらではない気はする。ただ、他を知らないために果たして、本当にこれでいいのか、正直分からない点もある。
- 今は法人全体で教育方針を決めている。各々の施設で教育方針を考えられれば、より良い指導を模索できるのになと思う。(岐阜県・A施設)

4月号の【月報】合格率の解析を読んで！

「日本語力に問題あり・・・」

- 月報の1面を読んで、「相変わらず合格率が低いなあ。」ということと、「都会のほうが合格できているのかな。」という印象を持った。
- うちの候補者は日本語力が低い。単語で話さずだけで助詞をどのように使ったか良いのかが理解できていない。話は職員が汲み取って理解できなくもないが、介護日誌を書かせたりは正直、無理なので、代筆をしている状態だ。
- 以前EPAの2期生を受け入れた経験があるが、その当時の候補者よりは、今いる候補者の方が日本語力もさることながら、質が下がっている感がある。以前の人のほうが「希望」をもって働いていた気がする・・・。今はそれを感じる事ができない。他の施設の職員からはこのような声はありませんか。(和歌山県・T施設)

【10分間テスト】を受けた受験者の声！！

- 「漢字テスト」とか「マークシート」のテストしか受けたことがなかった。だから、文で書くテストは見たこともないし、書きたくても書けなかった。【10分間テスト】の結果は、30%だった。



【到達度試験】に参加して、2か月後の日本語力がどのように変化したか？

- 【10分間テスト】の結果を見て、【到達度試験】に参加した。「100万人の日本語」のテキストと「ひらがなのと」を勉強した。先生に言われた通り、自分一人で勉強できるようになった。参加する前は、言葉は知っているのに文を書けなかったし、助詞が難しく分かっていなかった。2か月間でこんなにも変わって、自分でもビックリしている。職員からも「日本語がよくできるようになったね。」と言われるようになって、とても嬉しい。(大阪府・A施設)

テストのおすすめ！！【10分間テスト】の二つの特徴

一つ目の特徴：構文式で、基礎的な日本語力が把握できます。表面的な日本語力ではなく、受験者の言語能力を数値化して引き出す方式です。

- ★ 問題数は10問で、1問を1分間で記述して答える。
- ★ 問題領域は、名詞文・動詞文・形容詞文の領域。
- ★ 情景図を読み解いて、質問に記述で答える方式。

二つ目の特徴：【5つの言語技能】別に数値で表示するために、受験者の言語能力を詳しく分析した【考察票】がつけます。

- ★ 今後の教育指導の仕方を提示。
- ★ 受験者の学習意欲、並びに精神状態を解析。
- ★ 【10分間テスト】参加後の学習環境整備を提示。

※ お申込み方法に、お電話かFAXで。

TEL: 086-486-1742 FAX: 086-486-1744